

1 / 100 scale MASTER GRADE MS - 06F ZAKU Ver. 2.0



©創通・サンライズ

# MS-06F ZAKU II

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



1 / 100 scale MASTER GRADE MS - 06F ZAKU Ver. 2.0



ジオン公国軍宇宙用  
量産型モビルスーツ  
MS-06F ザク Ver.2.0  
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-06F ZAKU II



BANDAI 2008 MADE IN JAPAN

ジオン公国軍宇宙用  
量産型モビルスーツ  
MS-06F ザク Ver.2.0  
1/100スケール マスターグレードモデル



0153144

# ジオン公国MS開発史

## MOBILE SUIT MS-Mobile S.U.I.T(Space Utility Instruments Tactical)

MS(モビル・スーツ)とは、Mobile S.U.I.T(Space Utility Instrument Tactical=戦術汎用宇宙機器)を意味する。一年戦争初期にジオン公国が連邦軍を圧倒できたのは、MSの量産によるところが非常に大きい。

U.C.(宇宙世紀)0071年に総合的に就いたMSの開発には、常に困難が付きまとっていた。MS-06ザクIIの本格的な量産が可能となるまで、少なくとも“巨大な人型機動兵器”としての形を得たU.C.0073年からU.C.0077年の、実に5年に及ぶ歳月を必要としたのである。しかし、一度量産が始まってしまえば、研究開発の段階では想像もしていなかったようなノウハウが蓄積されるのも事実であり、歩留まりが飛躍的に改善されていくのが工業製品というものである。そのことは、すでにMS-05ザクIが、実際に配備され、教導機動大隊をはじめとする実戦部隊が運用されていたことからも証明されている。ノウハウが蓄積されて歩留まりが上がり、さらに生産数が増えてくれば、最終的には機体の製造コストは材料費によって決まる。これはあらゆる工業製品に当てはめることができる。最終的に3000機を超えるとされる“ザク”的量産は、まさに宇宙世紀における工業製品として(勝敗はともかく)最も成功したプロダクトであったと言えるだろう。さながら旧世纪における自動車や航空機のように、MSは社会インフラをも変革するパラダイムシフトを地球圏にもたらしたのである。

## 史上初のMS同士の戦闘

U.C.0071年に、ミノフスキー粒子散布に伴う諸効果に着目した公国軍は、その環境に適応した兵器の開発に着手。U.C.0073年には試作1号機が完成し、MSと名付けられた。

U.C.0069年8月15日、月の裏側に位置するサイド3=“ジオン共和国”は公国宣言を発し、デギン・ソド・ザビが公王となって公国制に移行した。“ジオン公国”は、ジオン・ズム・ダイクンが進めていた平和的な独立運動の方針を転換し、ザビ家による独裁のもと、連邦政府との軍事的な衝突を視野に入れた戦略を策定した。ミノフスキー粒子の散布技術を確立し、メガ粒子砲を完成させた公国軍は、U.C.0071年にミノフスキー粒子散布下における新兵器の開発に着手する。総力戦を想定していた公国軍は、多くの民間企業に宇宙用機動兵器の開発を要請した。ジオニック、ツイマット、MIP(エム・イー・ペー)の3社が参加した初期のコンペティションにおいて、一対の可動肢を持つ機体がAMBAC(アンバッブ=Active Mass Balance Auto Control=能動的質量移動による自動姿勢制御)機動によって、方向転換に必要とされる推進剤の消費を飛躍的に減少させるとともに、圧倒的な機動性を発揮した。これに基づいて研究が進められた結果、さらにもう一対の可動肢を備える“人型”を模した形状が選定された。そしてU.C.0073年、MS-01という型式番号とMS=モビル・スーツという名称を与えられた新兵器は着実に進化を遂げ、U.C.0075年初頭には複数の実戦型MSのトライアルが行われ、トータルスペックや生産性に鑑み、ザクの制式採用が決定する。同年8月には実戦仕様のMS-05がロールアウトし“ザク”と名付けられた。この機体の量産成功に伴って教導機動大隊が編成されることとなり、運用と生産のノウハウが蓄積されていった。さほど間を置かず量産は改良型のMS-05Bに移行し、教導機動大隊の中核を担うこととなる(これに伴って初期仕様の機体はMS-05Aとして峻別されている)。この時点での公国軍は、既にMS同士による戦闘を想定しており、無重量空間でのドッグファイトや重力下における近接戦闘、白兵戦、格闘戦なども教導機動大隊の教程に盛り込まれていたと言われており、実際、MS-05のショルダーダーマーは攻防兼用の標準仕様となっている。ただし、この時点でビーム兵器に対する防御は想定されていなかった。なぜなら、メガ粒子砲は戦艦/巡洋艦規模の設備が必要な兵器であり、MSの機動力をもってすれば、艦砲の射線軸を回避するのは難作もなかつたからである。ちなみに、MS同士による実戦が行われたのは、U.C.0079年9月18日。サイド7-1パンチにおいて、公国軍ファルメル部隊のMS-06FザクIIと連邦軍の試作MS、RX-78-2ガンダムによるものが初めてである。

## MS-06F ザクII

実際の運用によって、MS-05Bの各種の問題点も浮き彫りとなつた。技術者やパイロットによる、さらなる高性能化を要請する機運の高まりを受けて、MS-06が開発されることとなつた。

MS-05の生産と運用を通じて得られたデータは設計にも反映され、前線でのメンテナンスや局地戦に対応した改造などが簡便に行えるよう、制御系や動力系の見直しが実施され、各部材の規格化や換装に配慮した構造が採用されることとなつた。事実上“人体を模した挙動の再現”に関しては、MS-05の時点ですでに完成していた。例えば、マニピュレーターによる“作業精度”は、当初の標準兵装とされていた105mmマシンガンの射撃、分解、組み立てが可能なほどであった。また、マガジンの操作や港湾施設の潜入などに必要な作業のほぼすべてに対応可能であった。また、マガジンの交換や榴弾の投擲、斬撃などをこなす一方で、モードを変換すれば、拳や歩行脚そのものを打突や蹴撃に使う事もできた。無重量での姿勢制御は言うに及ばず、歩行や走行、跳躍など、重力下における高度な走破性など、圧倒的な機動力を発揮した。無論、複雑な作業やコロニーへのランディングなど、練度が要求される局面はあるものの、“巨大な歩兵”としての機能は既に完成していたと言える。その基礎スペックを継承、発展させる形で、U.C.0077年からMS-06Aタイプの量産が始まった。並行して各種のバリエーションも開発されることとなつたが、これは、公国軍の戦略として地上への侵攻も選択肢として現実味を帯びてきたためであり、U.C.0076年12月に着手された“局地戦用MS”的開発計画に伴う要請に応えるためのものでもあった。無論、MS-05も重力下での稼働は想定されていたが、排熱処理の問題が未解決のままであり、実際に地球環境で運用するためには、装甲の換装やジェネレーターの周辺機器を乗せ換える必要があったとされている。06Aタイプの量産は比較的早い時期に終了し、U.C.0078年初頭に生産の中心はC型に移行。同年末には、より実戦的なF型へと移行していく。こうして“かく有り得べきMS”として誕生したMS-06FザクIIは、当時想定し得る汎用性と拡張性を貪欲に取り込んだ公国軍製MSの原器そのものとなり、

各種のバリエーションを次々に生み出すこととなつたのである。ちなみに、局地戦用MSの開発に先立って公国軍は生産拠点を拡大しており、同年12月の段階で、ズム・シティを始めとするジオン本圏はもとより、ア・バオア・クーやグラナダなどを含む全工場のおよそ80%がF型を生産していたと言われている。それはまさに“臨戦態勢”であり、あるいは開戦直後の“喪失数”をも視野に入れた生産体制に基づいていたとする説もある。かくして“ザク”的生産数は、同一型式のMSとしては空前絶後となる。これはジオン公国が国家としてのリソースを“戦争遂行”に集中した結果であり、実質的な経済状態はすでに破綻していたとされている。それでもジオン公国が“総力戦”必至の“独立戦争”に邁進したのは、主力兵器であるザクが“従来の戦術を根本的に覆す”という確信によるものであり、その“勝算”は搖るぎないものだった。そしてそれは、一年戦争の緒戦において証明されている。

## MS開発系譜 - 工業製品としてのザク

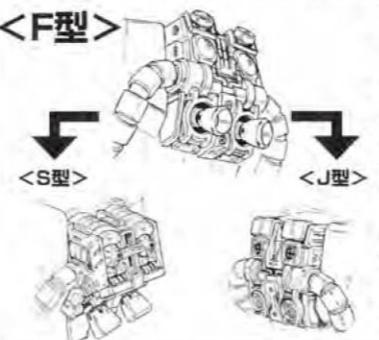
MSが投入される以前の戦術は、基本的にミサイルや艦砲射撃などの大量破壊兵器に依存するものであり、戦闘機などによる交戦も、よほせんは高度なセンサーや自動追尾装置などを運用するボタンの押し合いでいた。ミノフスキー粒子生成の原理や効果は公開されていたが、その領域内の戦闘など自殺行為に等しい。連邦軍首脳陣は、この条件は公国軍も同様だと考えていた。しかしMSは、ミノフスキー粒子が散布された空間において“光学的な直接目標”による高機動戦闘を主目的とする兵器であった。制御系にはミノフスキー粒子に対応した防護装置を施し、外部センサー群には“光学的な”探知装置を複数配する事で、連邦軍の目と耳を塞いだまま攻撃できたのである。とはいえ、その“工業製品”が優秀であればあるほど、このような寡占状態は長く続くものではなく、模倣や競合、あるいは対抗措置のレスポンスが早いのは兵器に限った話ではない。実際、レーザー通信や光学センサー、後にはミノフスキー干涉波探知技術なども比較的早期に投入されている。公国軍が“ザクのバリエーション”に積極的だったのは、そのことをも見越していたからだとされている。



ZEONIC MS-06 Line Development genealogy

### 脚部スラスター

MSが装備する各種のスラスターは、熱源や燃焼材などの要素を除けば、構造的にはいわゆる旧世纪以来のロケットノズルと同じものである。優秀なロケットに必要なものは噴射量と速度であり、その積が推力となる。ただし、ロケットエンジンはいたずらにノズルを巨大化させても推力が向上するものではない。宇宙空間においては、ある程度理想的なロケットエンジンを運用することができるものの、大気圏内では大気圧に抗するため、ノズル径や全長を縮小して噴射速度を落とさなければならない。実際に宇宙空間と大気圏内の双方で最高性能を発揮するロケットノズルなどというものは現実的には存在しない。F型が装備するスラスターの形状は、双方で兼用される事を想定して決められたものなのである。F型は操作性を重視した機体であると同時に、宇宙空間でも地球上でも運用可能であることを前提として設計されている。そのシルエットは、地上用のJ型や総合性能向上型のS型とほとんど変わらないように見受けられるが、その一方で、これらはバーニアスラスターの大きさを対比することである程度判別する事が可能であり、外見上ほぼ唯一の差異となっている。



### 背部スラスター&メインジェネレーター

一年戦争において、ザクは多様なアプローチによって、あらゆる環境に適応してみせた。驚くべき事に、それらの適応に要する改造や改修は、基本設計にほとんど手を加えることなく行われていた。無論、最低限の機械工作設備や多少の調整は必要ではあるものの、各部のスラスターやセンサユニットはおろか、冷却装置に各種のフィルター類、果てはメインジェネレーターまでもが載せ換え可能であった。この構造はF型の特徴だが、基本的にA型やC型も同様である、逆に言えば、A型もC型も、F型に至るための試験的な先行量産機だったと言うこともできる。それぞれの局地戦用に改裝された機体には、装甲形状などが異なるものも少なくないが、J型とS型に関しては、基本的に各スラスターユニットと冷却装置が換装されているのみである。例えばJ型は空冷機構を取り入れた冷却ユニットと、スラスターの燃焼室とノズルがコンボーネント化されたユニットがF型から換装されており、地球下降作戦の本格化に前後して、F型と同じ設備で型仕様の機体も生産された。初期のS型は、装甲材やプロペラントタンクなどの換装に多少の改造が必要だったが、後にそれらも規格化され、生産ラインも共用されている。この構造はメンテナンスにも有利に働いていた事は言うまでもない。

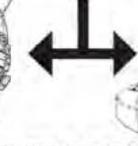
### < F型 >



### < S型 >



### < J型 >



## △ 注意

### 必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

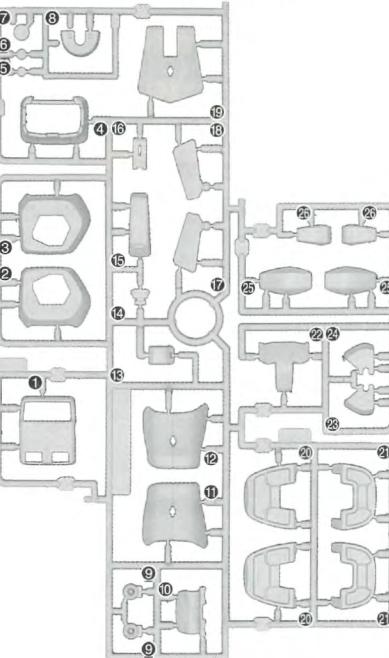
### 組み立てる時の注意

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。  
※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

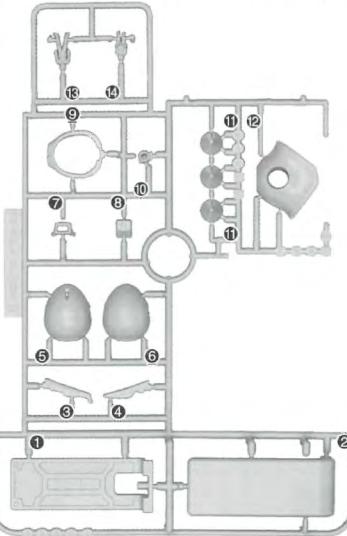
## パーツリスト

(X印は使用しないパートです。)

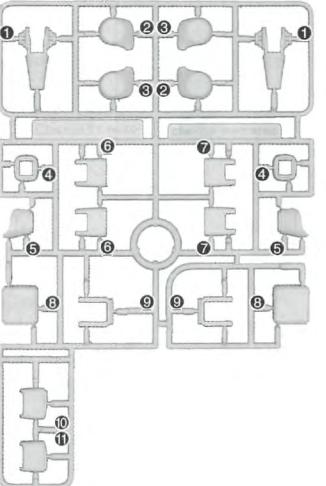
Aパート (スチロール樹脂: PS)



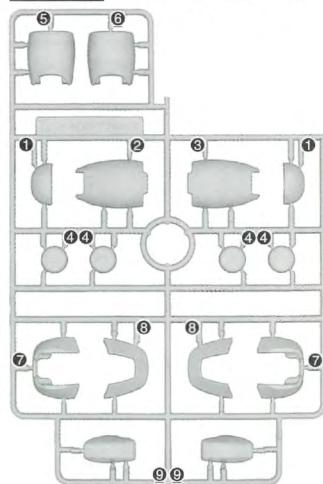
Bパート (スチロール樹脂: PS)



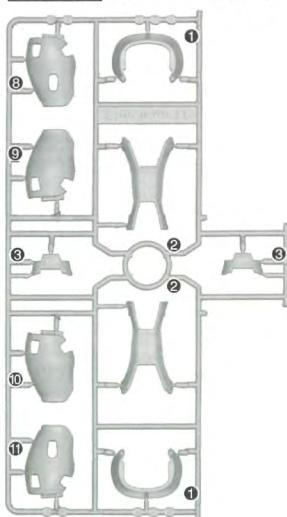
Cパート (スチロール樹脂: PS)



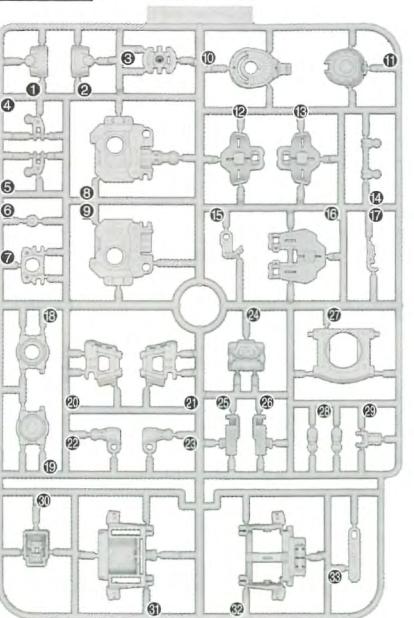
Dパート (スチロール樹脂: PS)



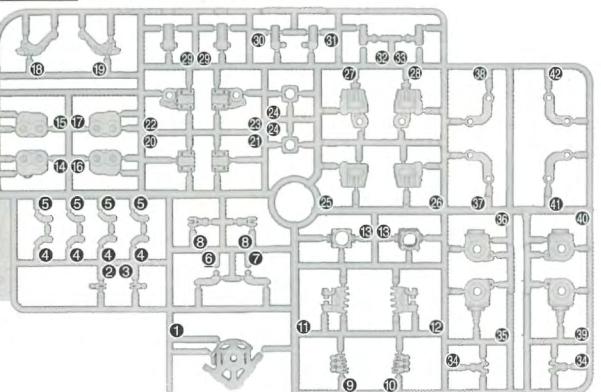
Eパート (スチロール樹脂: PS)



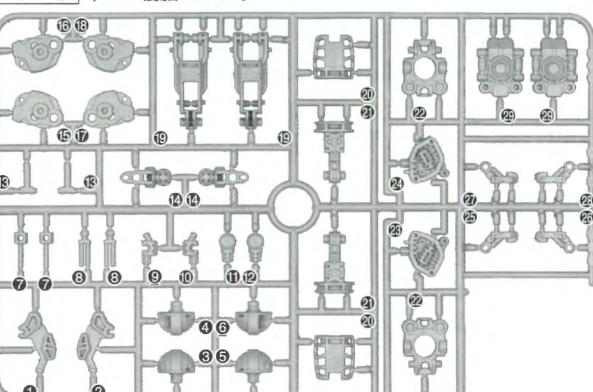
Fパート (ABS樹脂: ABS)



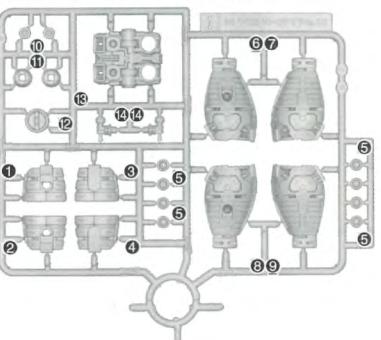
Gパート (ABS樹脂: ABS)



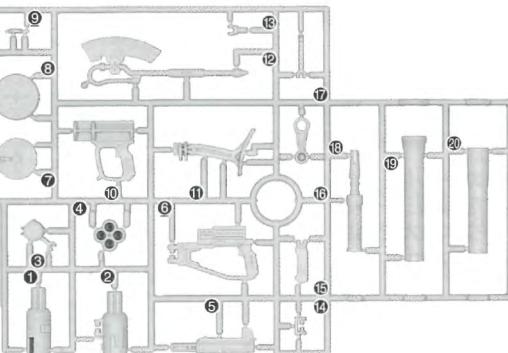
Hパート (ABS樹脂: ABS)



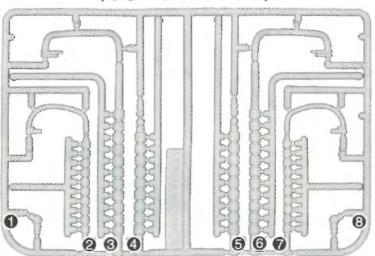
Iパート (スチロール樹脂: PS)



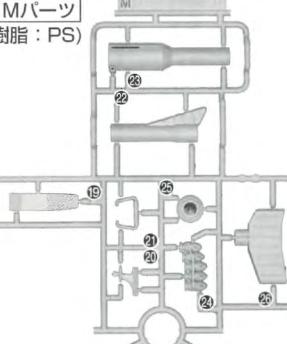
Jパート (スチロール樹脂: PS)



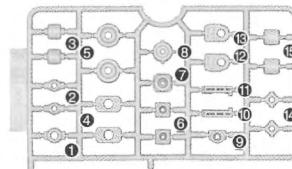
Kパート (スチロール樹脂: PS)  
(ポリエチレン: PE)



Mパート  
(スチロール樹脂: PS)



〈PC-200〉  
(ポリエチレン: PE)

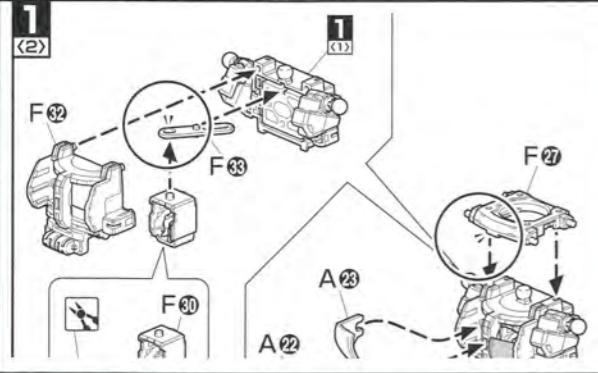


マーキングシール.....1枚  
ガンダムテカール.....1枚  
バイブスフリング.....2本

# 組み立て前の基本説明

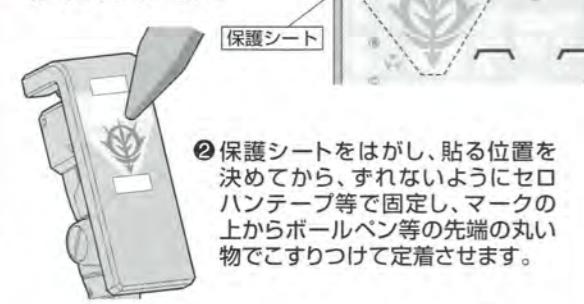
部品の向きに注意してください

※組み立て図中に「!」についている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



## ガンダムデカールの貼りかた

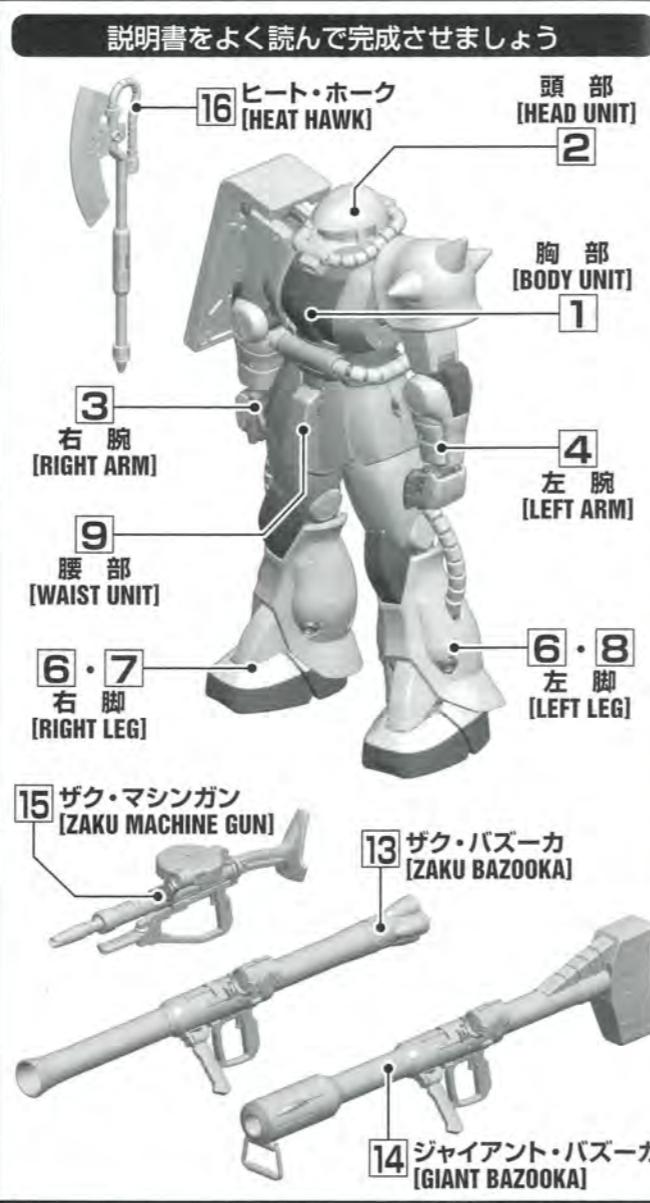
① ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



② 保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

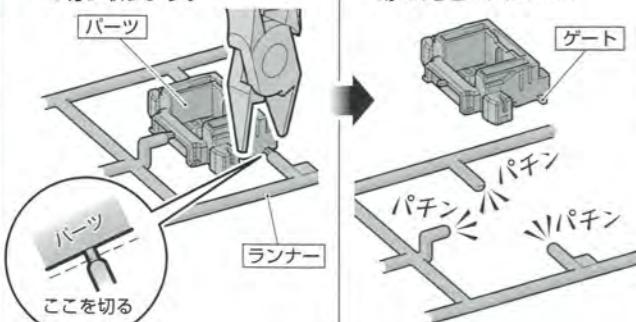
③ シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。



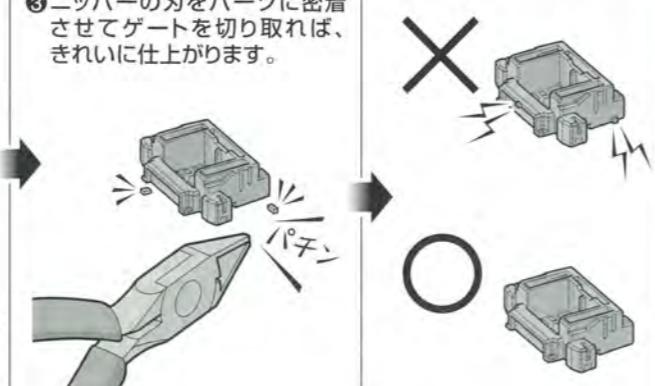
## パーツの切り取りかた

① まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



② パーツを切り離して持ちやすくなくなったところでゲート跡の処理に入ります。

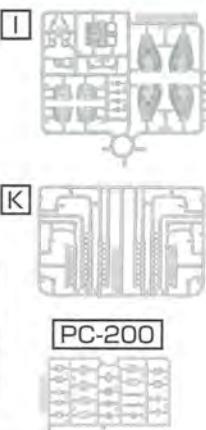
③ ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



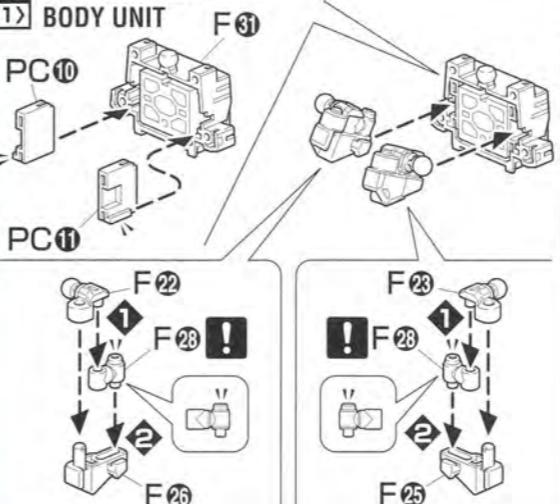
## 1 BODY UNIT



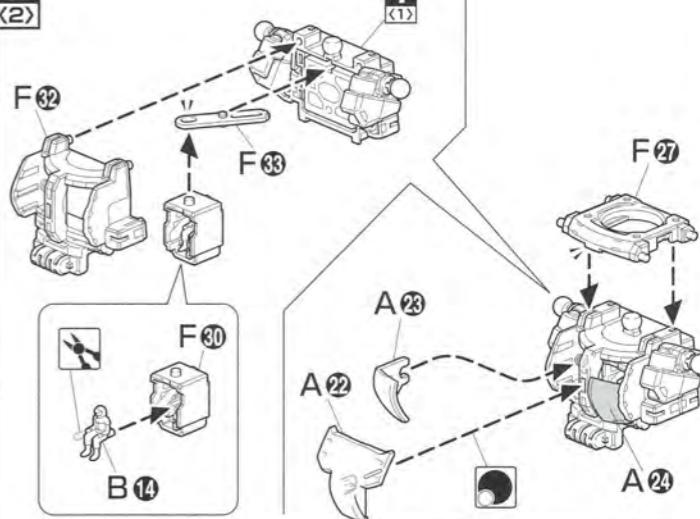
・組立1で使用するパーツ



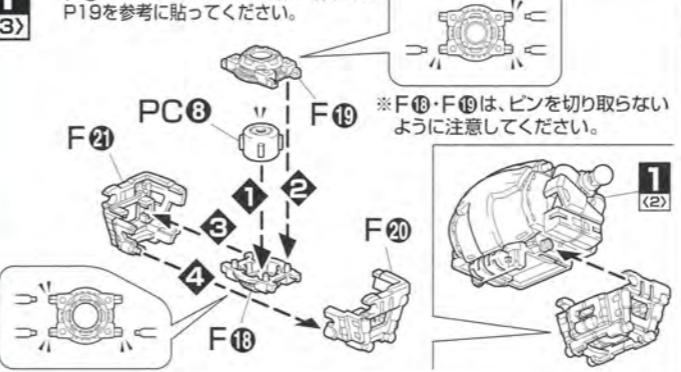
## 1 [胸部の組立]



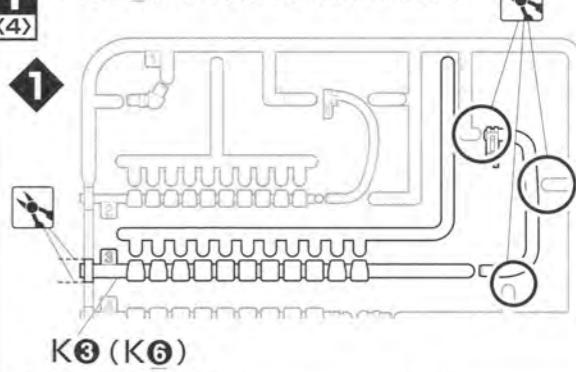
## 1



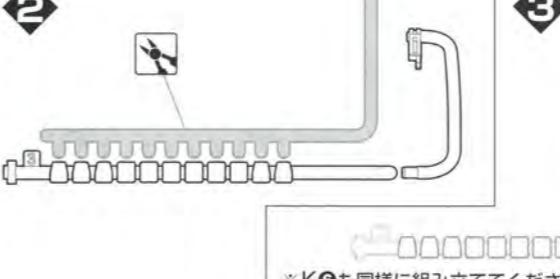
## 1



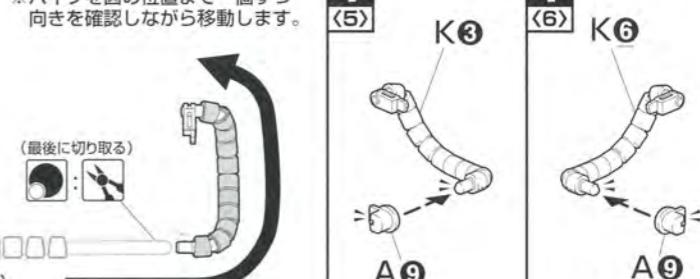
## 1

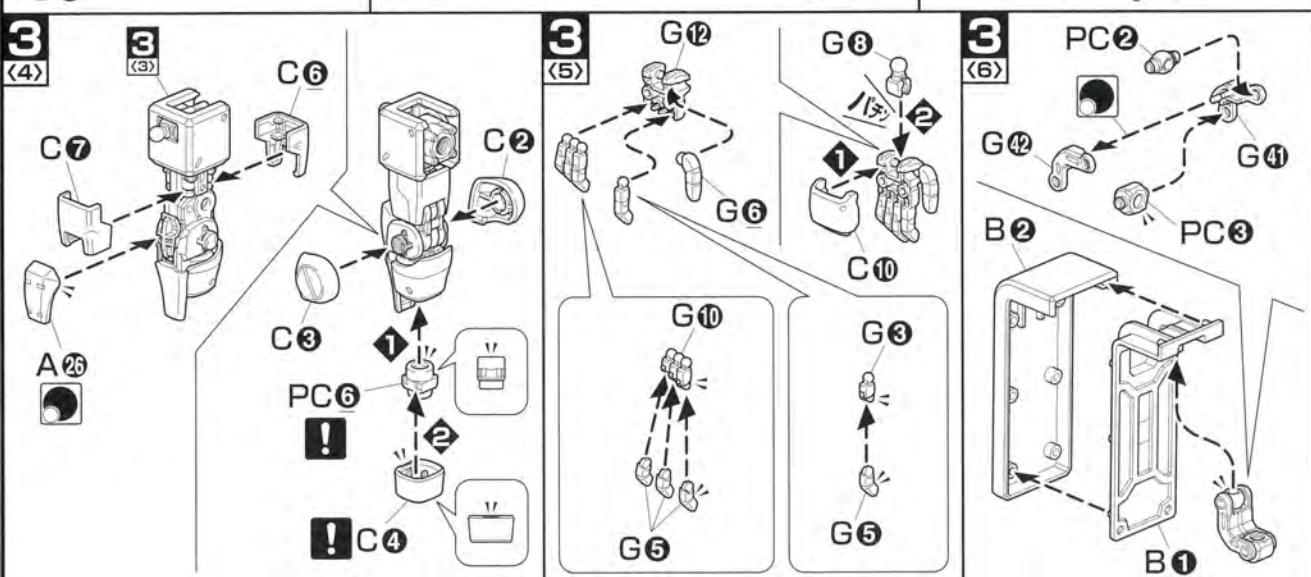
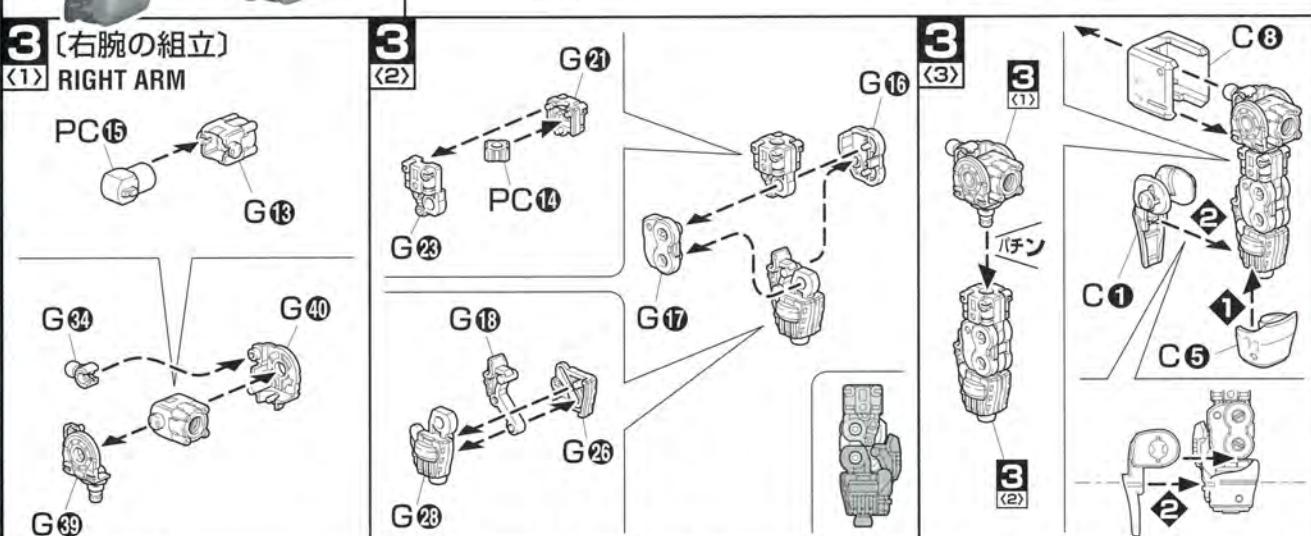
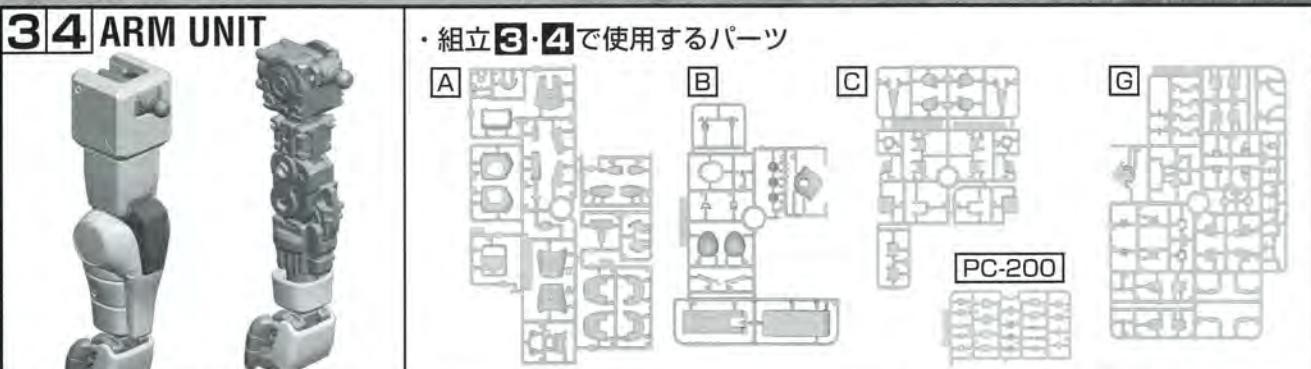
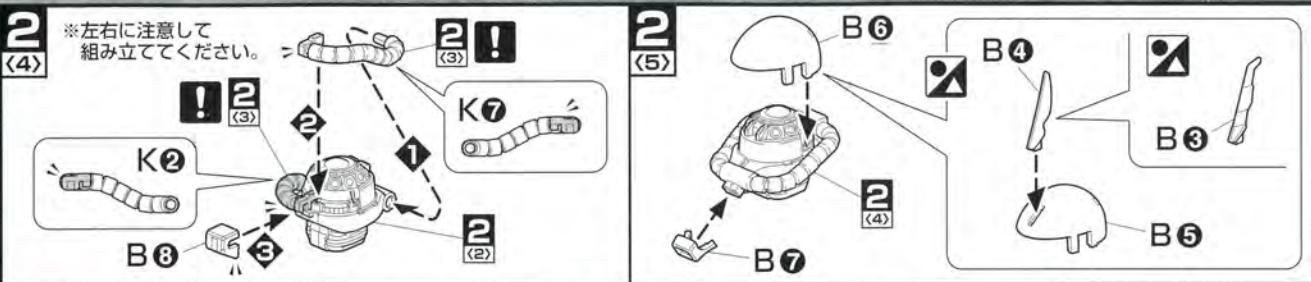
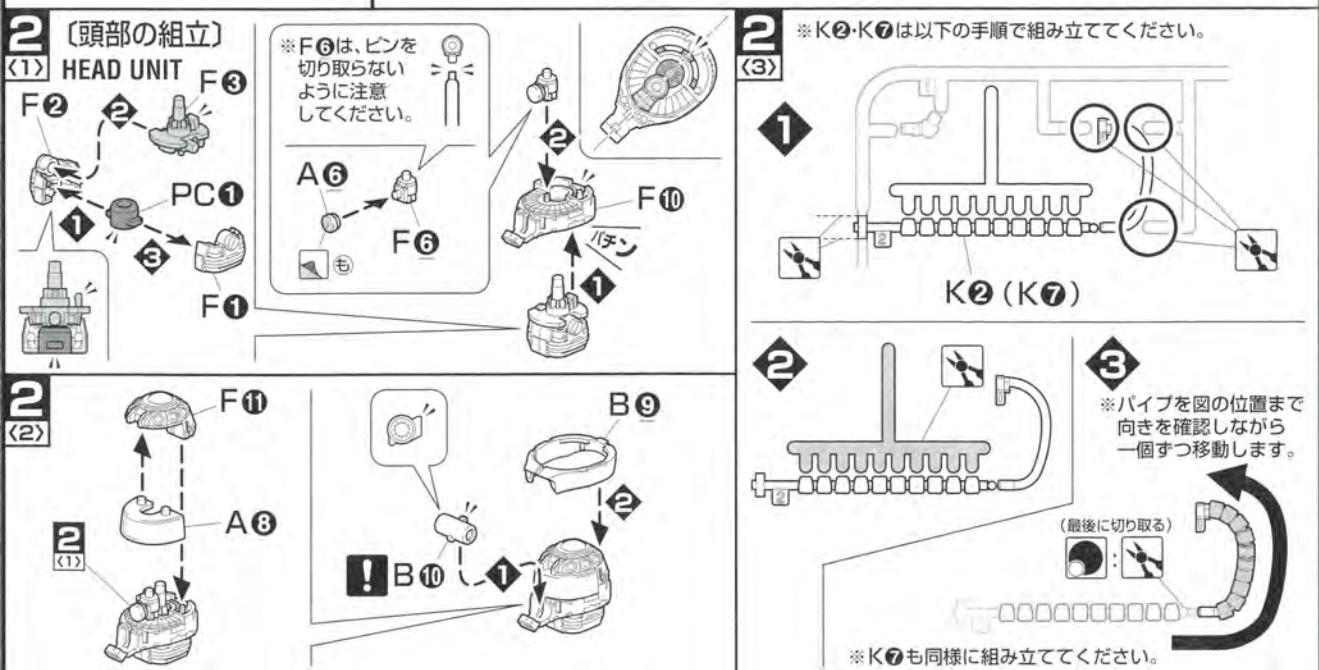
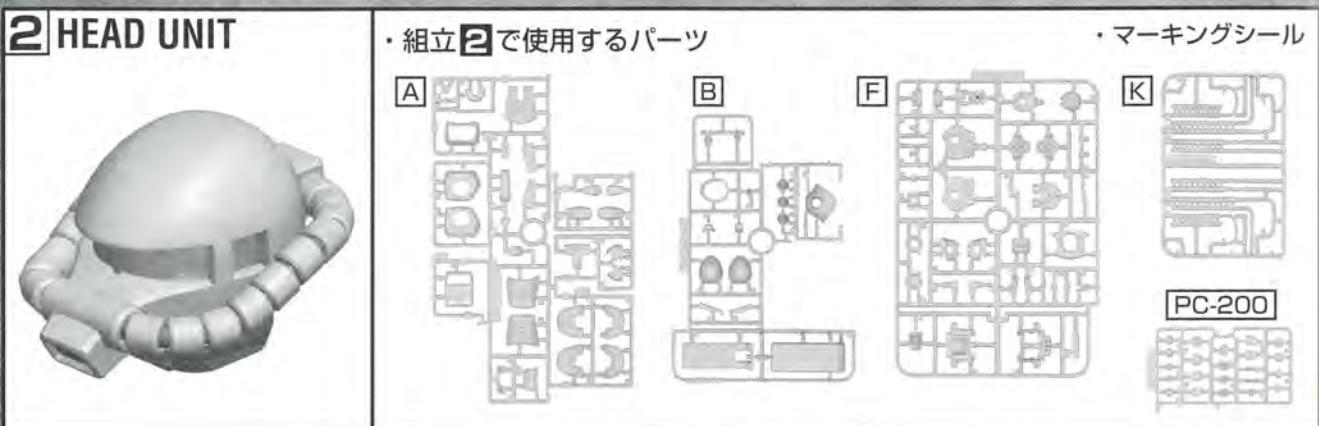
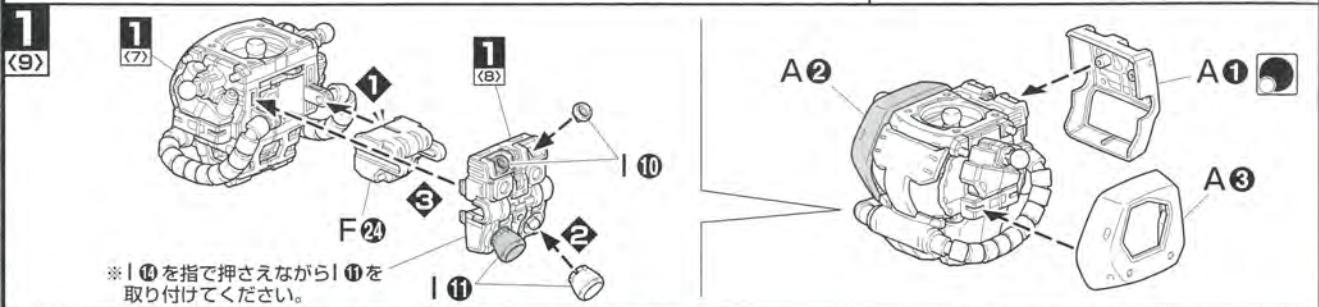
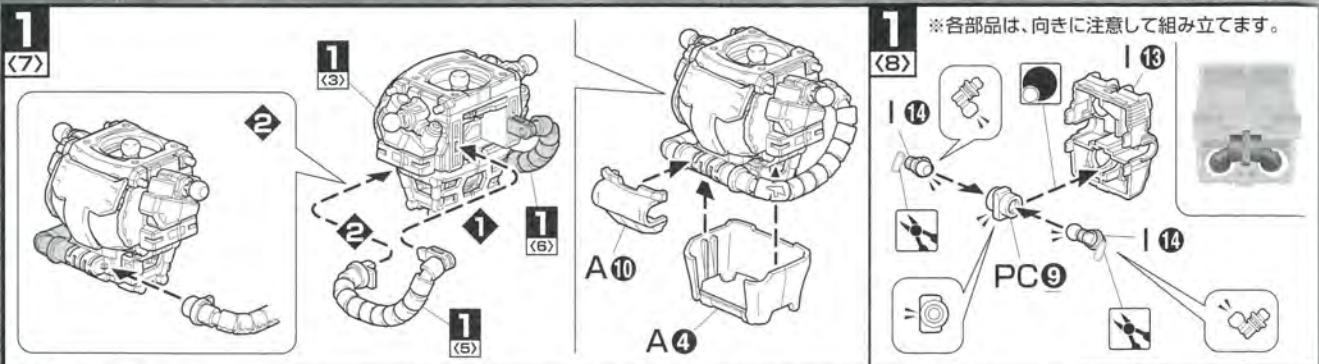


## 2



## 3





# MS Tracks in U.C.0079



## 歴史の扉は開かれた

U.C.0079年1月3日、ジオン公国は地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。宣戦布告と同時にサイド1、2、4を奇襲した公国軍は、連邦軍のパトロール艦隊や駐留部隊を潰走させ、4日にはサイド2のコロニー“アイランド・イフッシュ”を制圧し「ブリティッシュ作戦」を敢行する。緒戦の優勢は長く続かないと考えていた公国軍は、戦況が有利なうちに戦争を終結させるため、連邦軍の本拠地である南米のジャブロー基地にコロニーを直撃させるつもりであった。この作戦の遂行においてもザクは活躍した。コロニーの襲撃から制圧、コロニー減速用核バルスエンジンの取り付け作業、さらには移動中のコロニーの護衛や迎撃艦隊の排除など、あらゆる局面にザクは投入された(※この時期の大規模な損耗によって、06F型への転換が一気に進んだ側面もある)。1月10日、コロニーは地球に落ち、オーストラリア大陸の形を変え、北米各地の都市機能を粉砕。地球環境にも深刻な影響を与えた。その後、ルウム戦役と南極条約の締結、地球降下作戦などを経て戦況は膠着するが、同年9月18日、辺境のサイド2を舞台に状況は再び動き出す。ムサイ級ファルメルから発した3機のザクは、建設途上の1パンチコロニーに取り付き、“慣れた手付き”で宇宙作業用のドアを開け放つ。「スレンダー、お前はここに残れ」「はッ、デニム曹長」1機のザクを残し、2機のザクはさらに奥へと侵入する。その先に待つものは……。



## PAINTING [塗装]

\*よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。  
\*塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

### MS-06F ザク Ver.2.0 指定色

腕、脚などの塗装色 ホワイト(50%)+イエローグリーン(25%) +ブラック(25%)	胸、つま先などの塗装色 ミッドナイトブルー(100%)
胴などの塗装色 ホワイト(50%)+グリーン(30%) +ブラック(20%)+ブラウン少量	ヒート・ホークの塗装色 パープル(55%)+ホワイト(30%) +ニュートラルグレー(15%)

ランドセルなどの塗装色  
ミディアムブルー(75%)  
+ブラック(20%)+レッド(5%)

ヒート・ホークの塗装色  
イエロー(60%)+ホワイト(30%)  
+オレンジ(10%)

武器などの塗装色  
ニュートラルグレー(85%)  
+ブラック(15%)

モノアイなどの塗装色  
螢光ピンク(100%)

ヒート・ホークの塗装色  
ニュートラルグレー(85%)  
+ブラック(15%)

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、  
塗装はお勧めできません。

\*カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの  
色は異なる場合があります。

## パイロット



## ワンポイントステップ ~One point step~

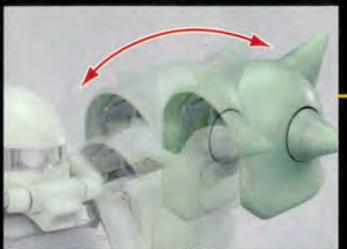
### スミ入れしてみよう!

ガンダムマーク/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットの  
スジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れ  
するだけで見違えるような仕上がりになります。



## MS-06F ZAKU II

3,000機とも言われるザクの量産が可能であったのはコストパフォーマンスの良さ、つまりは工業製品として見た場合の構造が非常に効率よく設計、製造されている事に起因している。

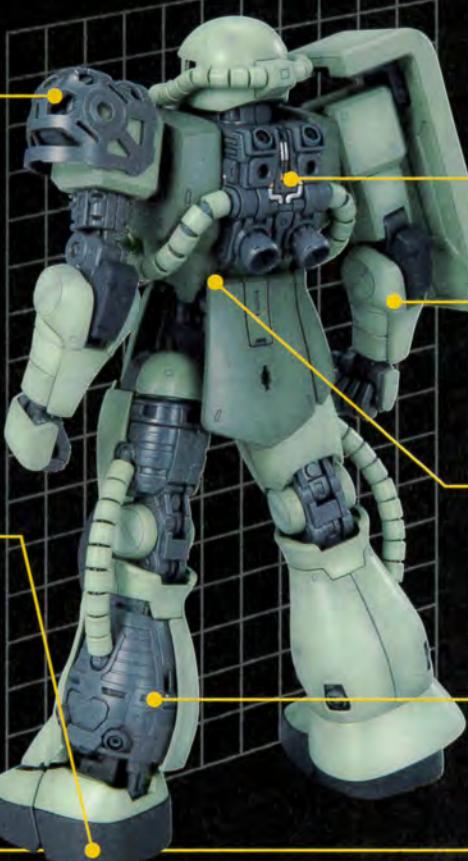


▲ショルダーアーマーは激突時の衝撃を軽減するためインナーフレームを内蔵。また、サポートアームが可動し、交換時やシールドとの換装時には容易な着脱が可能である。

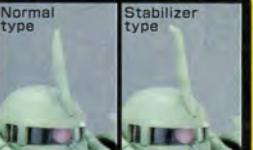


▲空間戦闘を可能にするバーニアスラスターとバーニアナズルが装備されている。

MODEL NUMBER : MS-06F  
Height : 17.5m  
Weight : 58.1t Full Weight : 73.3t  
Generator output : 951kw  
Armor materials : super hard steel alloy



▶指揮官機は頭部にブレードアンテナが装備されており、通信系のモジュールも強化されている。



▶スラスター単位は、空間戦闘を可能にしただけでなく、重力下での戦闘も考慮に入れた設計がされている。



▶アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるよう設計されている。



▲動力ユニットは、コクピット下部に配置されている。



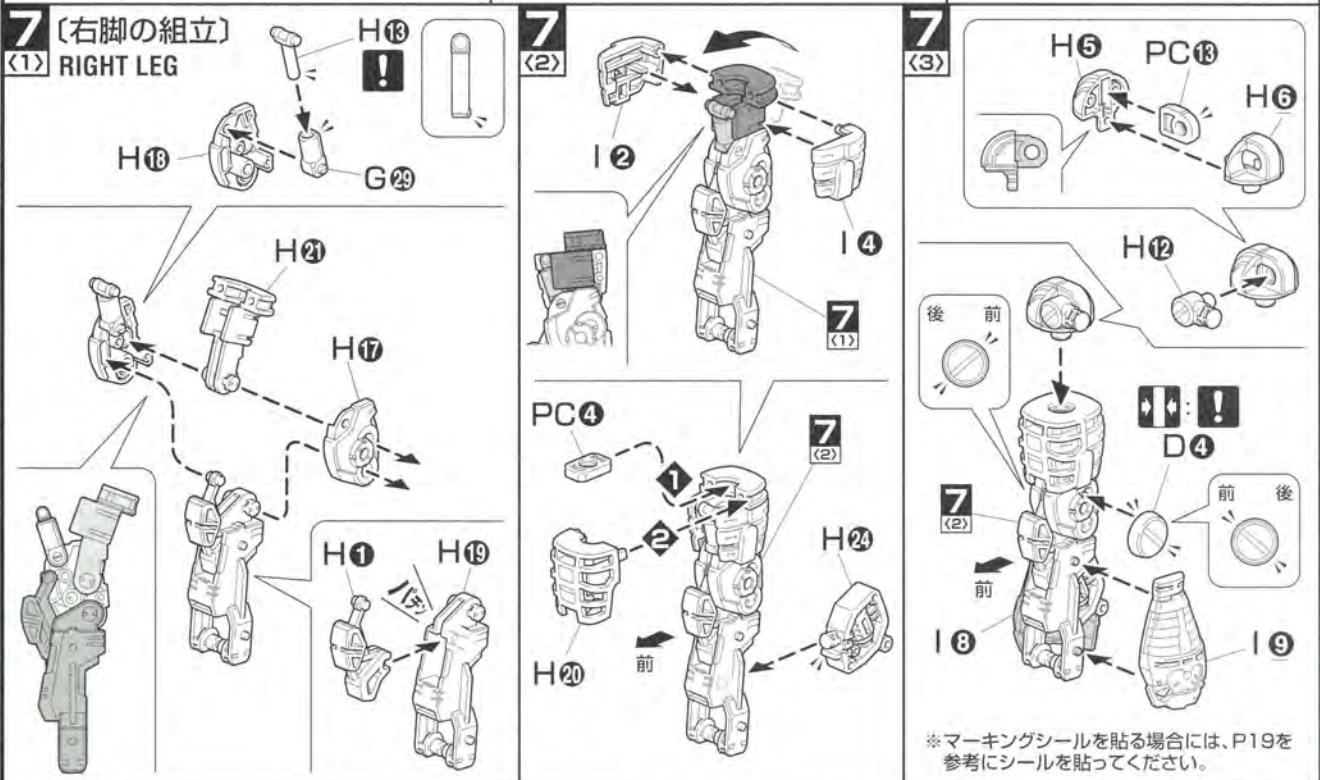
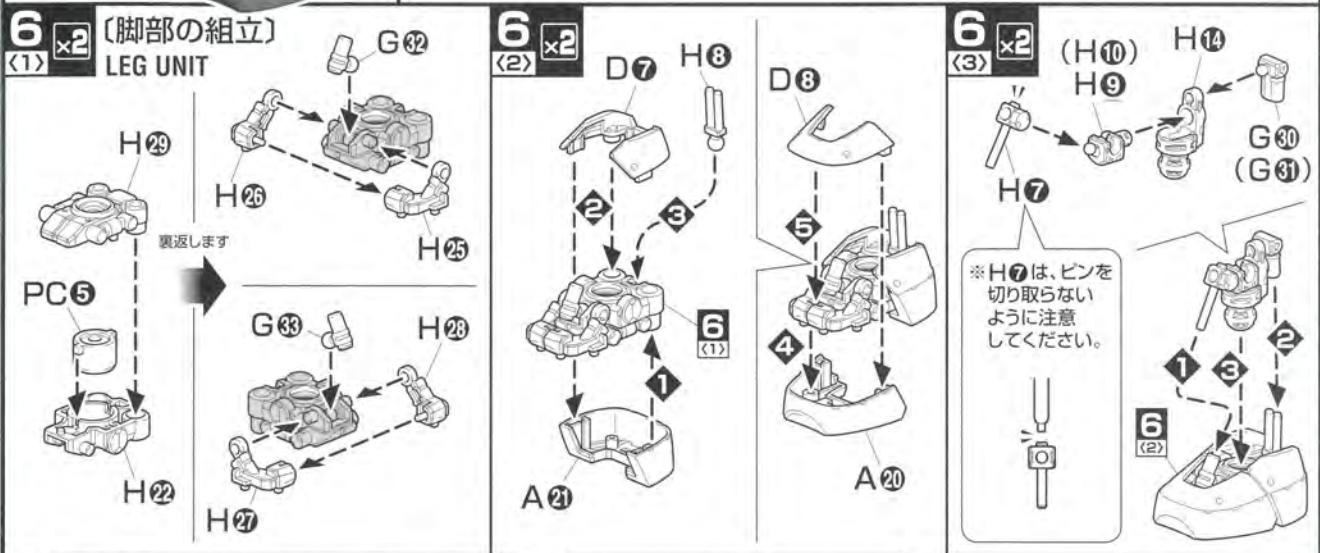
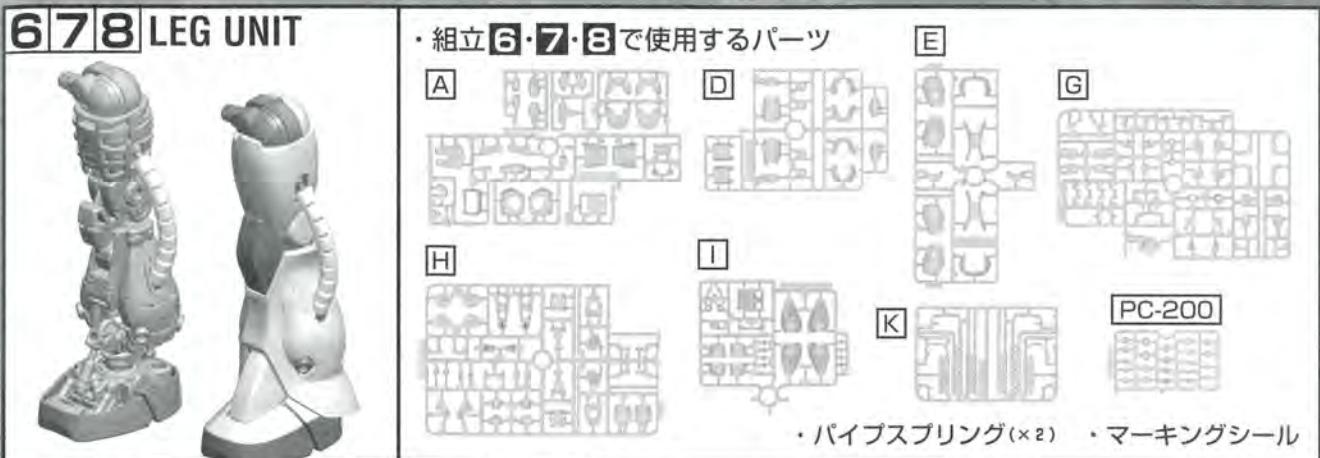
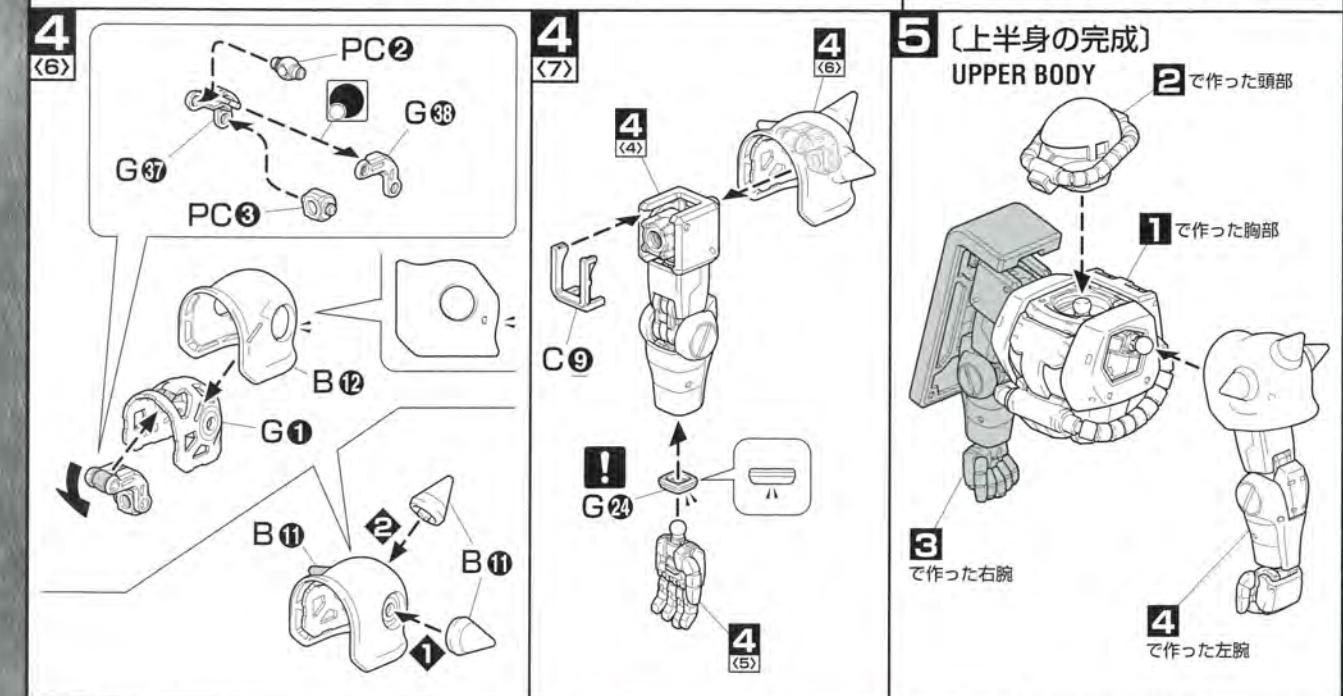
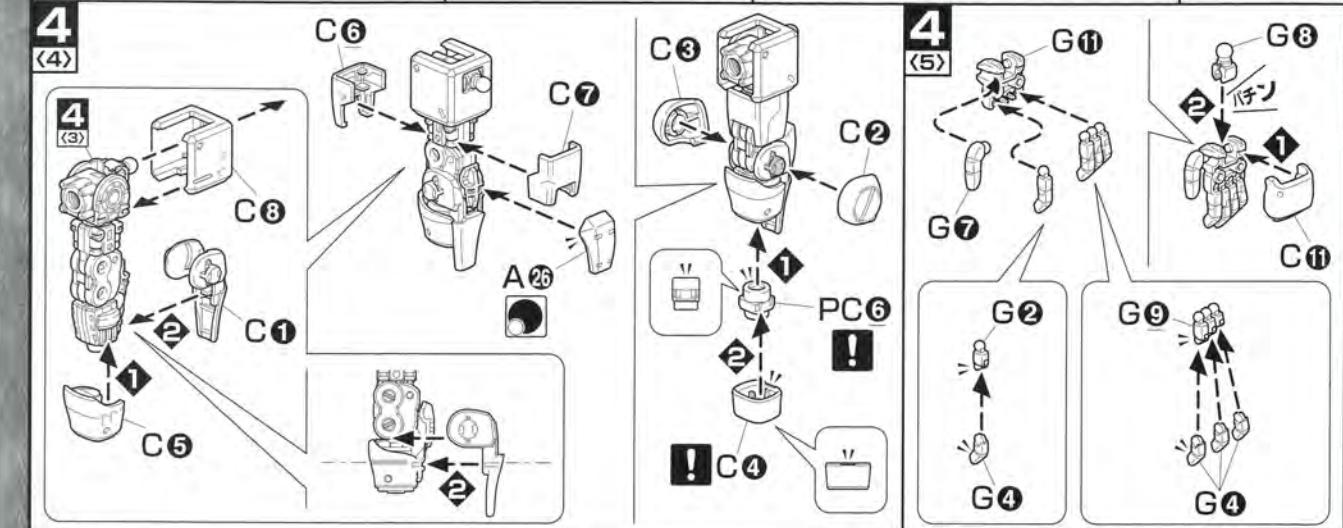
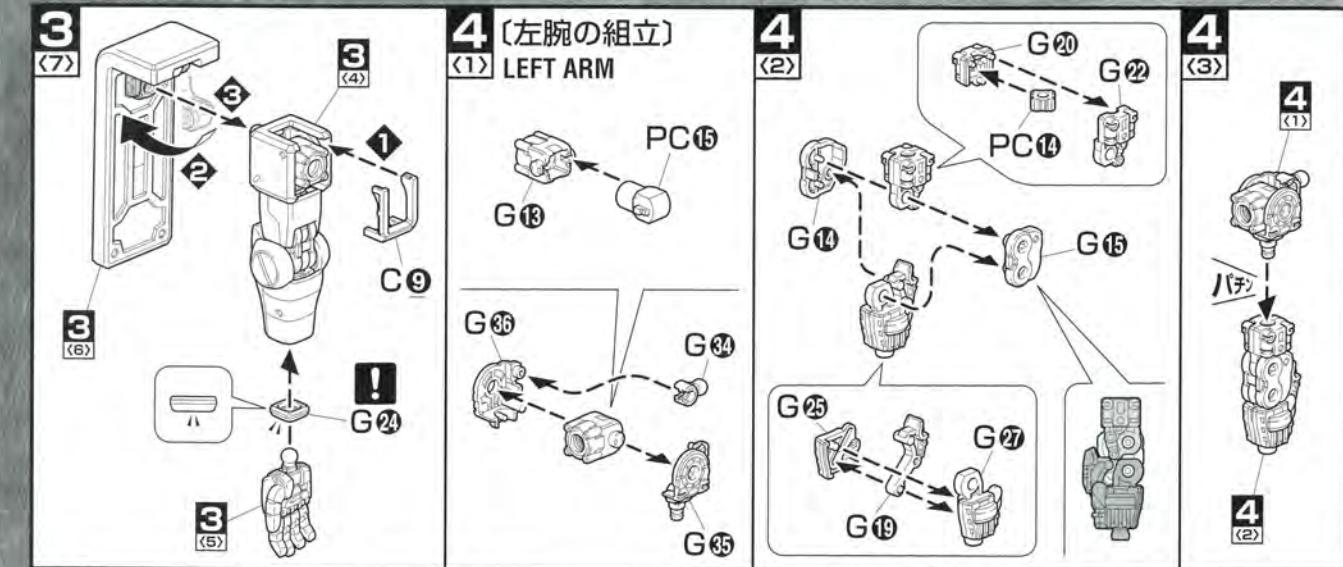
▶モノコック構造とユニット化されたバーツ構成により、汎用性とメンテナンス性に優れた機体となっている。

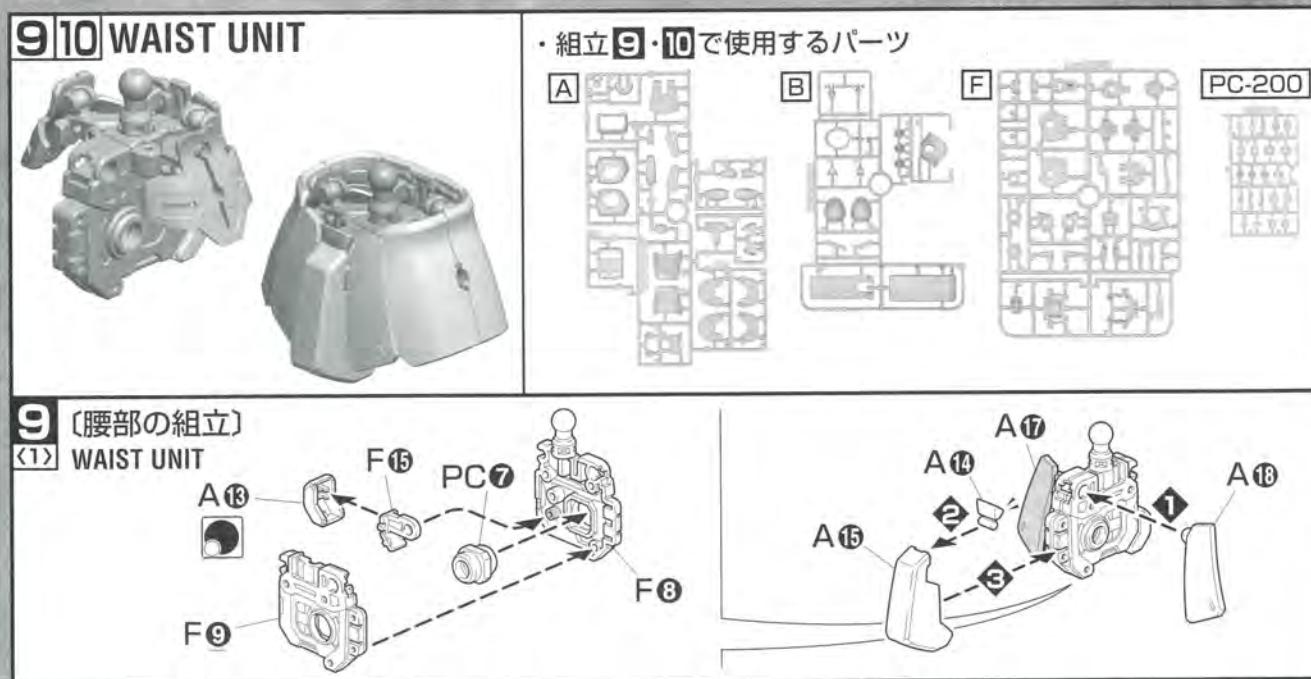
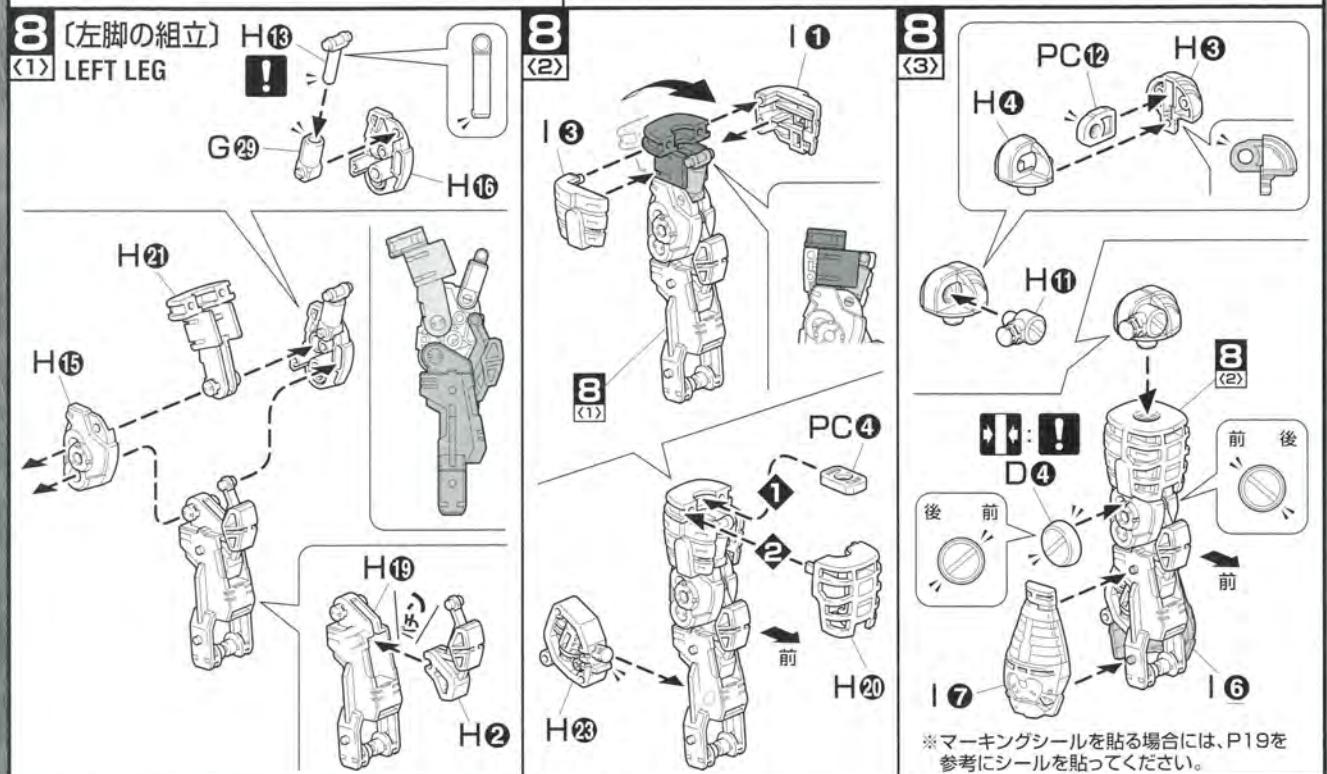
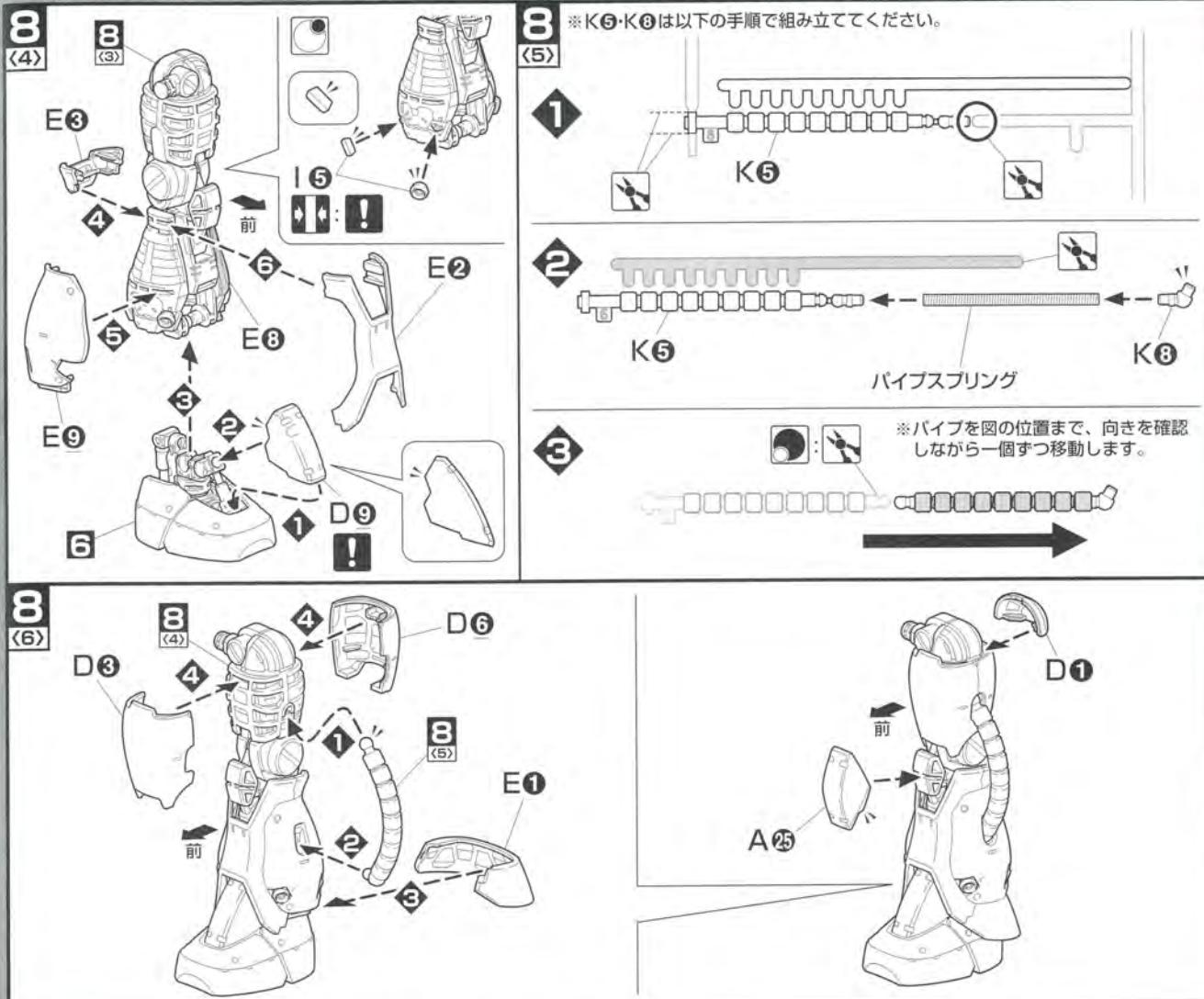
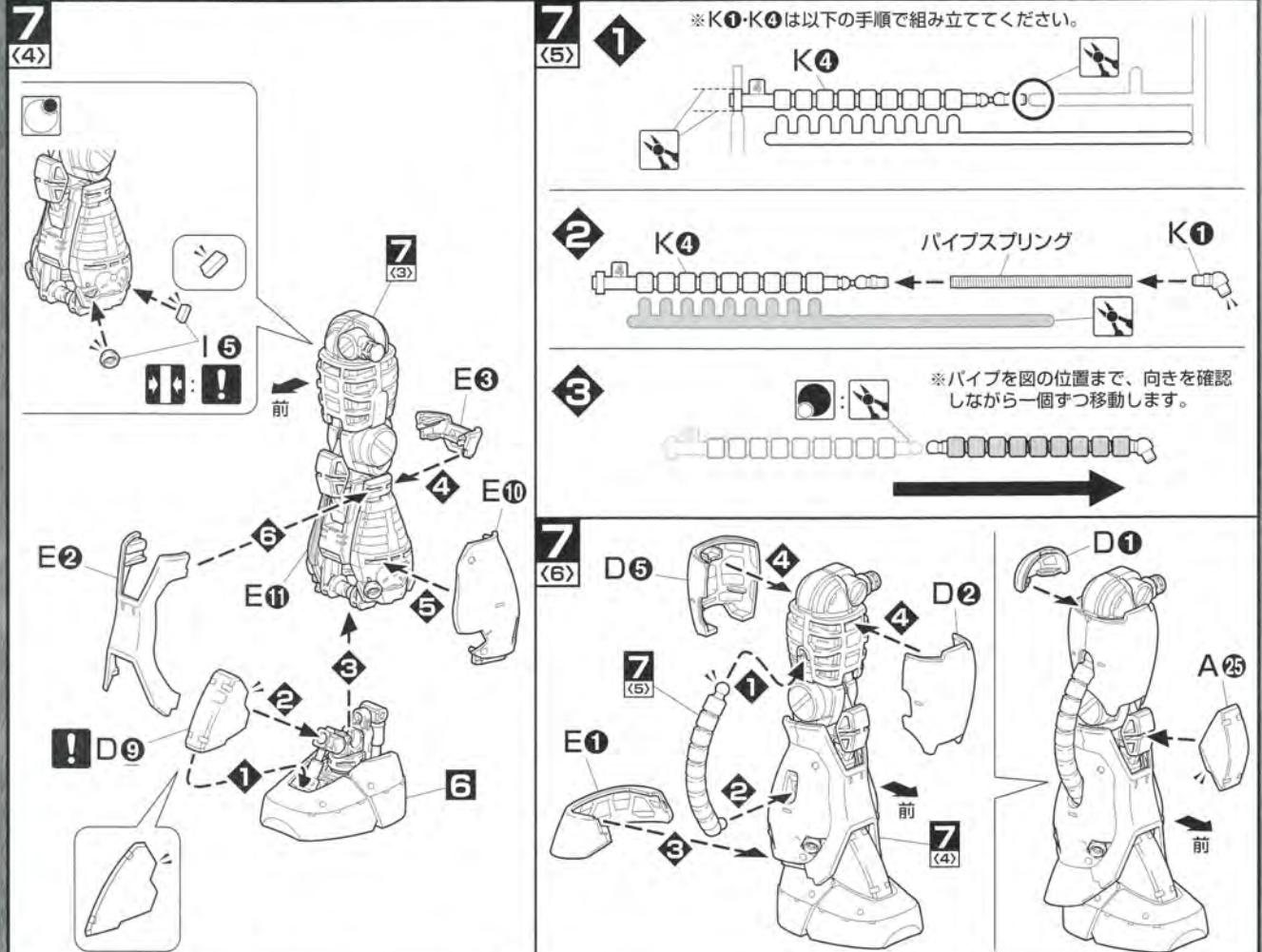
## Weapons

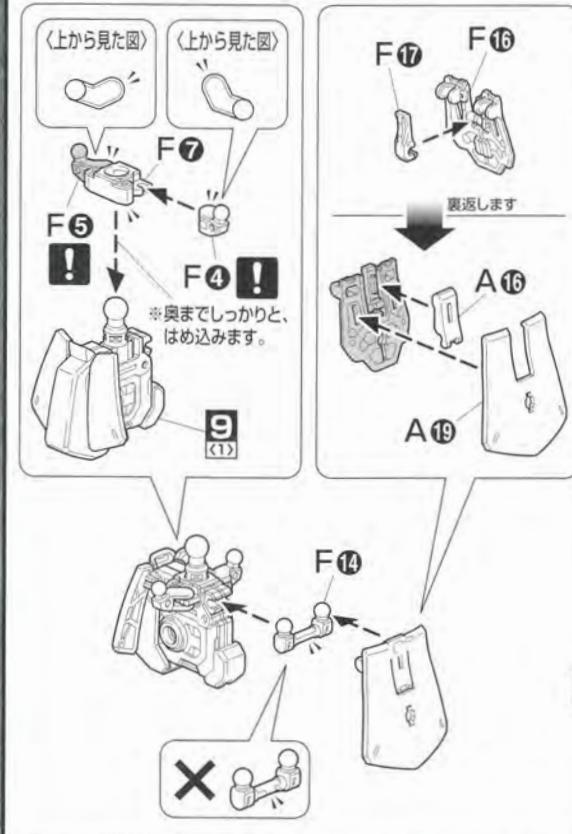
MS-06F ZAKU II Armament



▼各武装は、機体各部のウェポンラッチにマウントが可能。





9  
(2)10 [下半身の組立]  
LOWER BODY

11 [完成] FINAL ASSEMBLE

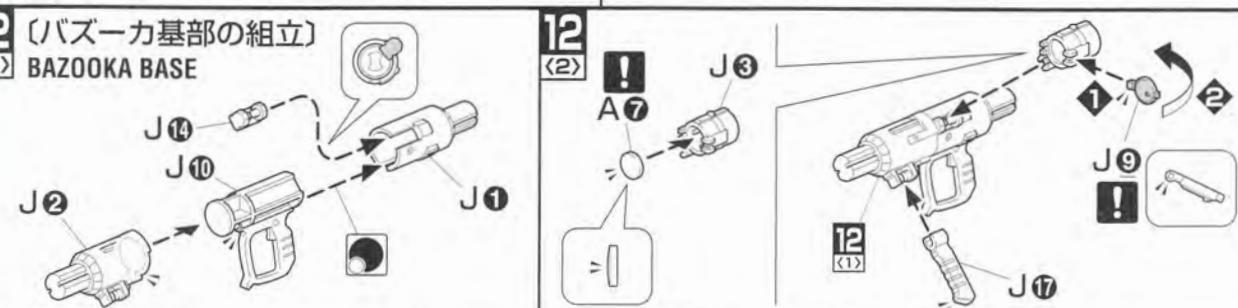
12 13 14 15 16 WEAPONS



・組立 12・13・14・15・16・19 で使用するパーツ



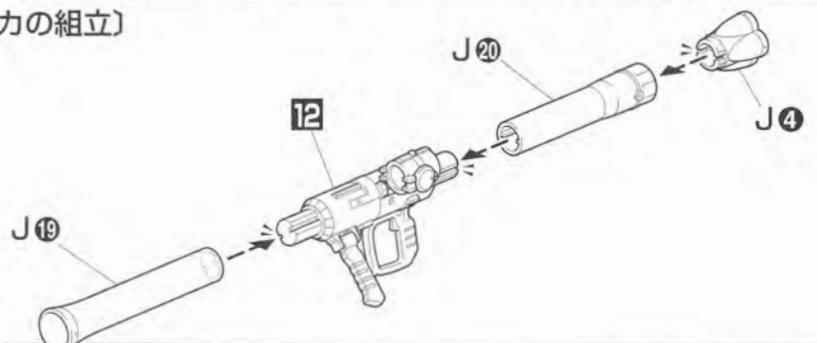
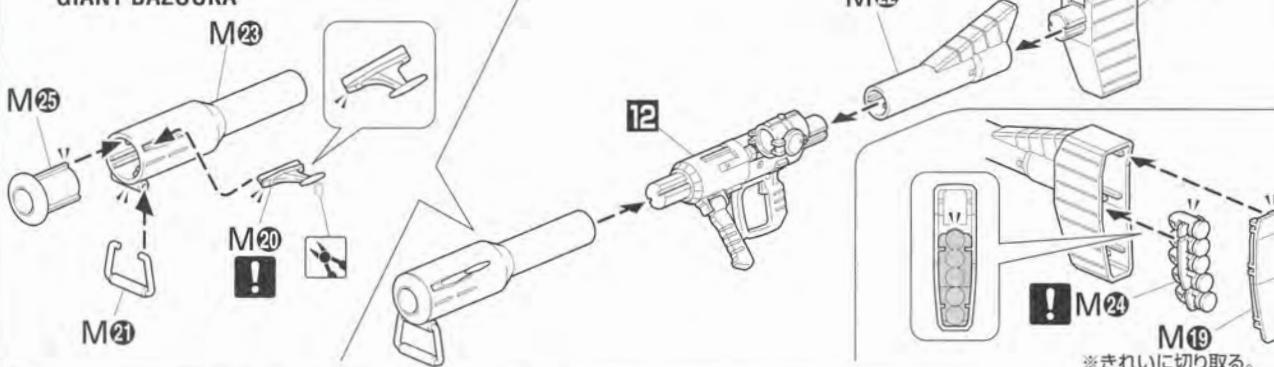
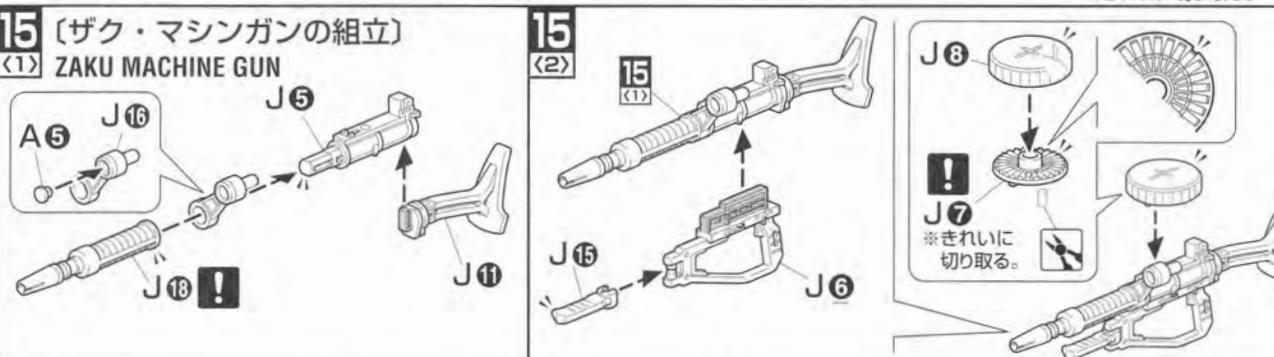
※ジャイアント・ bazooka とザク・ bazooka はコンバーチブルです。

12 [バズーカ基部の組立]  
BAZOOKA BASE

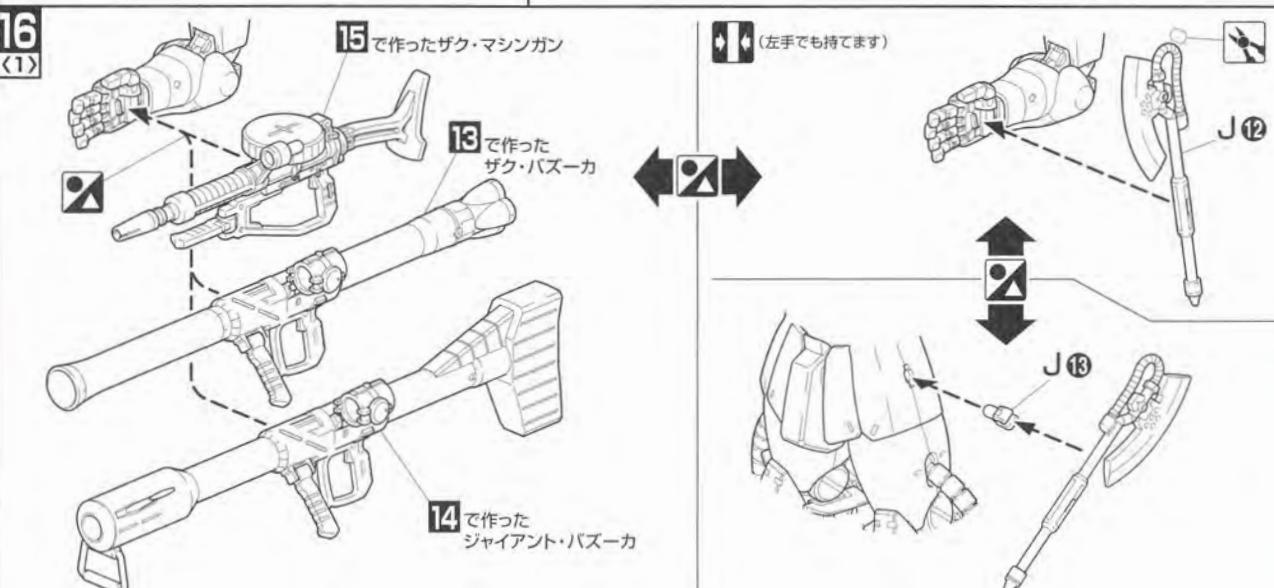
16

※組立図中の  
記号説明! 向きに注意して  
組み立てる後から  
組み立てる

※ザク・バズーカとジャイアント・バズーカはコンバーチブルです。

13 [ザク・バズーカの組立]  
ZAKU BAZOOKA14 [ジャイアント・バズーカの組立]  
GIANT BAZOOKA15 [ザク・マシンガンの組立]  
ZAKU MACHINE GUN

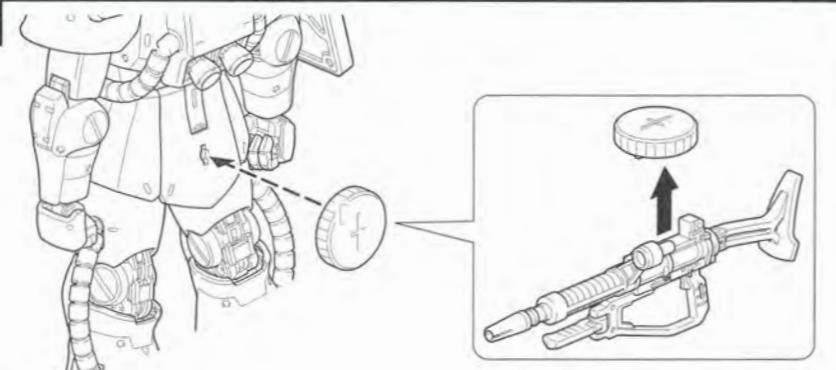
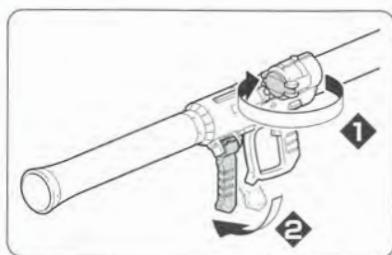
16 [1] 15 で作ったザク・マシンガン



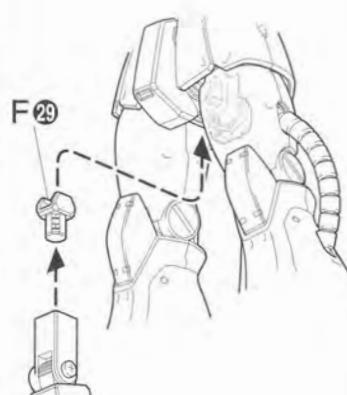
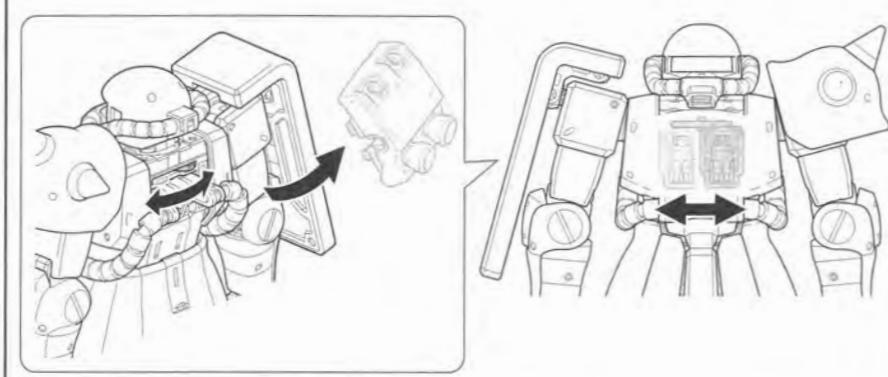
17

※組立図中の  
記号説明! 向きに注意して  
組み立てる切り取る  
部分! 両側に同じバーツ  
を取り付けるどちらかを選ん  
で取り付ける

※ジャイアント・バズーカも同様に取り付けます。



### 18 <コクピットの可動>



※バンダイプラモデルアクションベース1(別売り)を使用してディスプレイできます。



※バンダイプラモデルアクションベース1(別売り)を複数使用して写真のようにディスプレイできます。

### Seal

〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「数字の白文字」で表記しております。

【例】 ①…マーキングシール ②…ガンダムデカール

### 【ガンダムデカールの貼りかた】

1.転写するマークを大まかに切れます。

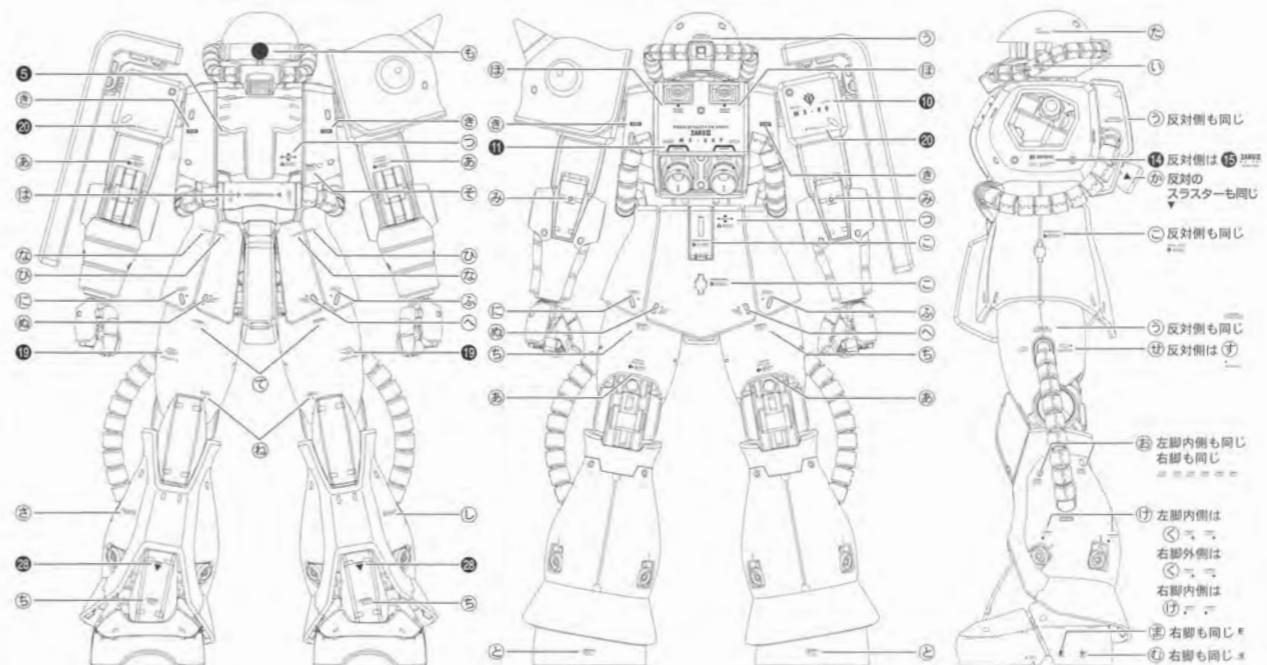
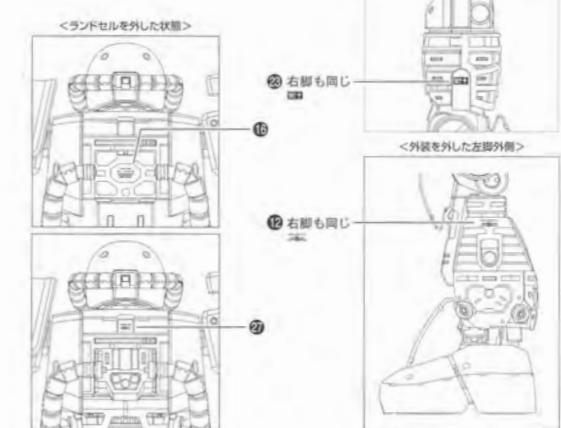
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。

3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。  
貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



喜好みでお貼りください。



アクションベース1(別売り)用デカール 好みでお貼りください。

4 PCST 7 ① SPACE COLOR SIDE ② OPEN  
▲ ③ □ ④ EXCL

②③は付属のアクションベース用ダイヤル(I⑪パート)の周辺に貼ってください。

※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。